

芳賀・宇都宮LRT ライトライン



ライトラインについて

営業キロ	宇都宮芳賀ライトレール線 約 14.6 キロメートル(複線 宇都宮市域12.1km)
停留場数	19 ヶ所 (100%バリアフリー 宇都宮市域15カ所)
追越施設	2 ヶ所(平石, グリーンスタジアム前)
導入車両	17 編成(車両長 29.520 m)
車両定員	約 160 人(座席 50 席)

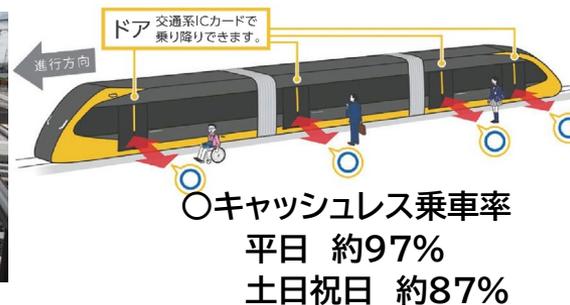


運転最高速度	時速 40 キロメートル(軌道法)
運賃	初乗り150円～400円 (対距離制) 通勤定期 約4割引, 通学定期 約5割引
運転時間帯	午前 4 時台～午前 0 時台 JR宇都宮駅の新幹線の始発・終電に対応
運行間隔・所要時間	(平日) ピーク時6分間隔, オフピーク時10分間隔 計256本 約44分 (軌道運送高度化実施計画) ※ 令和6年4月1日から快速運行を開始 約42分
利用者数	平日平均 : 約13,000人 休日平均 : 約10,000人 開業から6か月間 : 約227万人(当初予測の約1.2倍)

車両, 全ての停留所でバリアフリー



信用乗車方式の採用



▲車両の全扉の両側に設置されたICカードリーダー

開業当日の様子



平日，休日の利用状況

宇都宮駅東口停留場 平日 7時頃



沿線のショッピングセンターへ向かう利用客 休日15時頃



公設型上下分離方式：軌道運送事業者（宇都宮ライトレール株式会社）
軌道整備事業者（宇都宮市・芳賀町）

LRTの事業費 684億円（金額は税抜）

国補助 約1/2 326億円

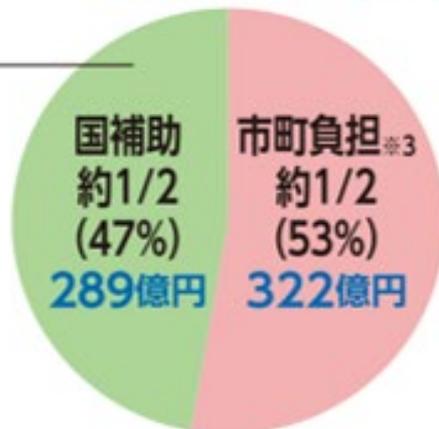
市町負担^{※1.2} 358億円

※1.宇都宮市：313億円、芳賀町：45億円
※2.栃木県から83億円（税込）の補助を受けております。
（建設時：25億円、地方債償還時58億円）

【内訳】

軌道関係 611億円

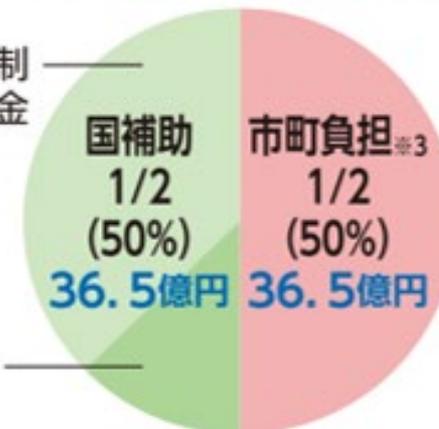
社会資本整備
総合交付金
都市構造再編
集中支援事業費補助
289億円



車両関係 73億円

二酸化炭素排出抑制
対策事業費等補助金
30億円

社会資本整備
総合交付金
6.5億円



※3.市町負担については、地方債を活用しており、その一部は国から交付税措置（地方債発行額の約2割）されております。

- 2004年 宇都宮市が主体となり、まちづくりと交通、LRTに関するオープンハウスや懇談会等を開催
- 2005年 「新交通システム導入課題対応策検討調査(宇都宮市)」において、LRTを軸とした総合的な交通まちづくり、事業運営の考え方等を整理
- 2008年 「第5次宇都宮市総合計画」において、目指すべき都市の姿として、「ネットワーク型コンパクトシティ (NCC)」を位置づけ
- 2010年 「第2次宇都宮市都市計画マスタープラン全体構想」において、東西基幹公共交通(LRT等)をNCCを支える公共交通ネットワークの基幹公共交通軸として位置づけ

- 2013年 東西基幹公共交通の実現に向けた基本方針(宇都宮市)の公表
- ・ 公設型上下分離方式によるLRTの導入
 - ・ 駅東側の優先整備区間等
- 芳賀町長等より、芳賀町までのLRT延伸を要望する要望書の提出
- 2015年 宇都宮ライトレール株式会社を設立
- 2016年 軌道運送高度化実施計画を申請
- 2018年 工事施行認可等の取得、LRT整備工事に着手
- 2022年 試運転の開始
- 2023年 開業（8月26日）

- ① コンパクトなまちづくりと
LRTを基軸とした公共交通ネットワークの構築
- ② 市民・町民・企業との協働
- ③ 「ゼロカーボントランスポート」の実現

① 持続可能なまちづくりの基盤「NCC」

100年先も持続的に発展し続けられるまちの土台

ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン (2015年2月)

- ① 市内の各地域に拠点を定め、
各拠点を交通ネットワークで結ぶ
- ② 市街地部と郊外部にある、
各拠点が持つ特性が
バランスよく調和したまち

【凡例】

[交通ネットワーク]

- 基幹公共交通(鉄道)
- 基幹公共交通(LRT)
- 幹線公共交通(路線バス)
- 幹線公共交通・地域内交通
- 高規格道路(高速道路)
- 道路ネットワーク
(3環状12放射道路など)

[拠点]

- 都市拠点
(中心市街地320ha)
- 都市拠点圏域
- 地域拠点 (市街地部・4か所)
- 地域拠点 (郊外部・10か所)
- 産業拠点
- 観光拠点



階層性のある公共交通ネットワークの構築

市内の各拠点等を結ぶとともに、鉄道やLRT、バス路線、地域内交通などが連携した「**階層性のある効率的な公共交通ネットワーク**」を構築

基幹公共交通の整備

- 南北方向の鉄道に加え、東西方向の基幹公共交通として輸送力に優れた**LRTを整備**

バス路線の再編

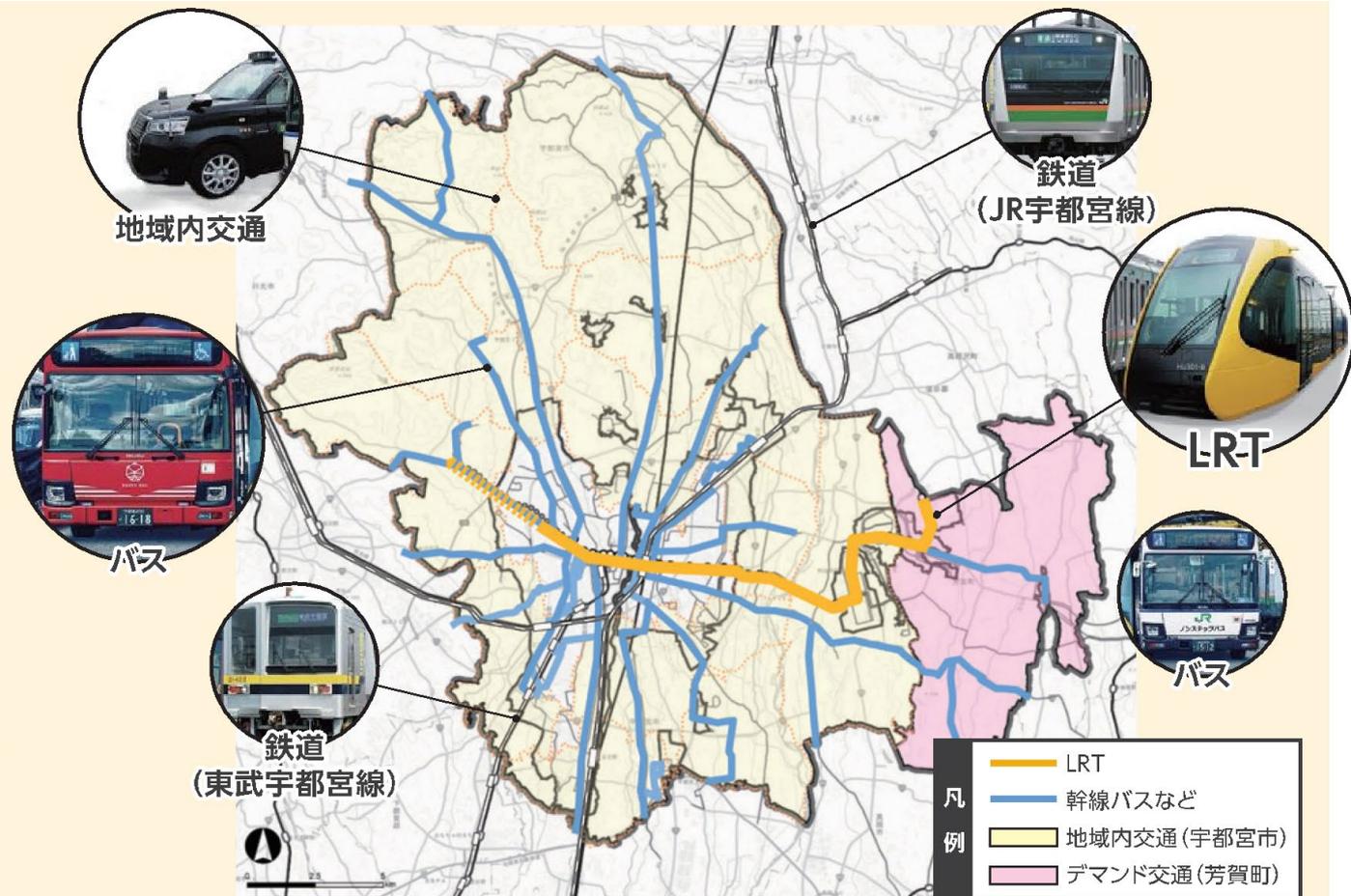
- LRTと重複する東西の路線をLRTと接続する南北の路線に付け替えるなど**バス路線を再編**

地域内交通・デマンド交通の導入

- 郊外部(宇都宮市)や芳賀町全域の移動手段として**地域内交通等**を導入

公共交通間の連携強化

- 乗り継ぎ拠点である**交通結節点(トランジットセンター)**を整備
- 各公共交通機関で共通して使える**交通系ICカードの導入**
- 公共交通の**乗継割引制度の導入**



※LRTとは、Light Rail Transitの略称で、各種交通との連携や低床式車両(LRV)の活用、軌道・停留場の改良による乗降の容易性などの面で優れた特徴がある次世代の交通システムであり、宇都宮市と芳賀町に敷設された芳賀・宇都宮LRTは、日本初の全線新設のLRTです。

トランジットセンターの整備

◆ 様々な公共交通機関をつなぎ、
利用しやすくするための
乗り換え施設を整備



■ 清原地区市民センター前トランジットセンター



<公共交通間のスムーズな乗り継ぎ>



駐車場 (64台)



乗降場 (一般車7台)



駐輪場 (70台)



バス乗降場



タクシー乗降場



地域内交通乗降場



トイレ・待合所



← 平石TCの
駐車場

清原TC
の駐車場 →



➡ パーク&ライド駐車場の利用が多く、
満車の状態が恒常化したため、
駐車スペースを増設(11月)

公共交通ネットワークの充実

バス路線の新設

交通結節点(トランジットセンター)を起点として、その周辺の地域拠点や産業拠点等を結ぶ9系統のバス路線を新設

●再編後のバスの運行本数(9系統を新設)

	従前	再編後	増減
平日	506本	654本	+148本
土曜日	399本	414本	+15本
日曜日・祝日	320本	323本	+3本

地域内交通の充実

■ 定時定路型

交通結節点(トランジットセンター)に地域内交通の停留所を設置

■ デマンド型

付近のLRT停留場を地域内・デマンド交通の目的施設に追加



端末交通の整備

■ 電動アシスト自転車と電動キックボードのシェアリングサービスの実施

●ポート数 47か所



■ 駐車場・駐輪場の整備

駐車場約150台、駐輪場約500台を新設

LRTを一つの装置として、
バスや地域内交通が縦横無尽に走り、
誰もが自分の力で移動できる
持続発展可能なまちへ

② 市民・町民・企業との協働

自動車中心の生活に加え，路面電車の文化がない都市において，公共交通ネットワークの構築の必要性，東西基幹公共交通となるLRTの役割等を丁寧に説明



▲オープンハウス



▲市民フォーラム



▲連合自治会説明会



▲LRT沿線地区説明会

小学校北側を近接したルート計画に対して、

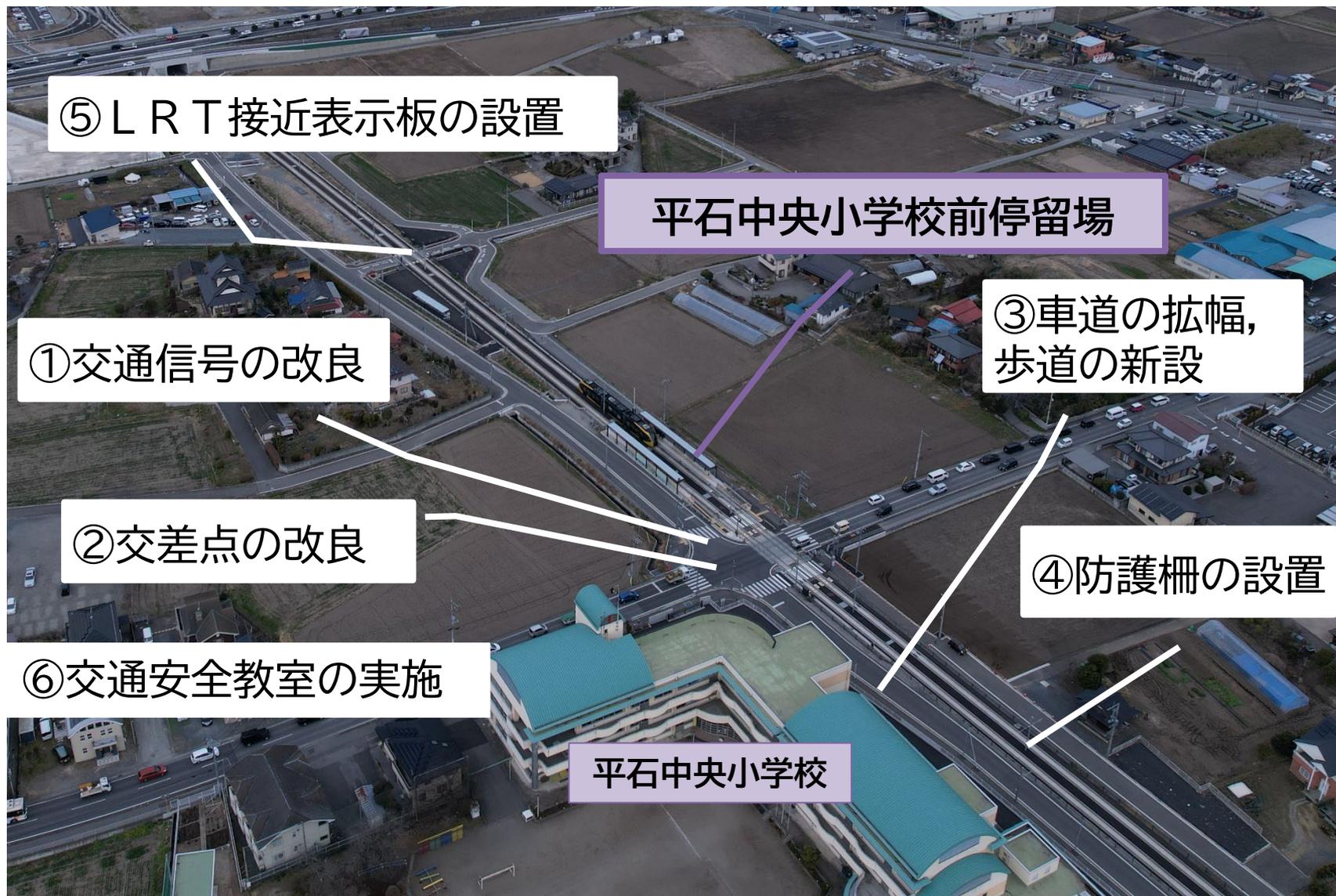
- ・「高速で電車が通過し、交差点で車と衝突した場合、学校に突っ込んでくる」、
 - ・「振動や騒音が児童の学習環境に悪影響を及ぼす」
など
- 一部の学校関係者等から、ライトライン整備を心配する声



- 市長が参加する説明会を7回
- PTAや学校、地元関係者、市からなる安全対策協議会の設置

約3年をかけて様々な問題や課題などを話し合いながら、
事業協力を頂き、安全対策を実施

平石中央小学校周辺の安全対策



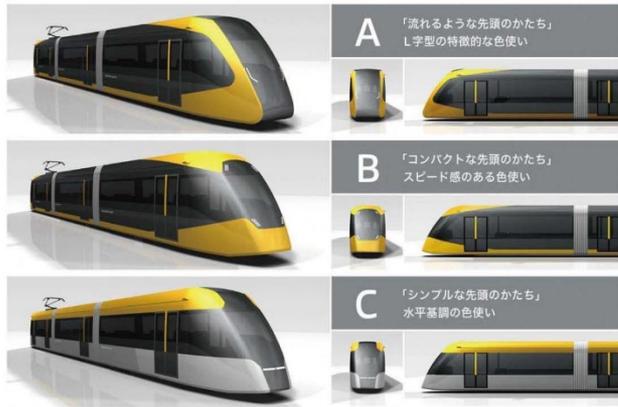
平石中央小学校児童からの「感謝の会」

- ◎ 児童自らが、LRTを利用して校外学習ができるようになったことや、通学区の弾力化で友達が増えること等を改めて認識
- ◎ LRT開業に感謝の気持ちを伝えたいと、児童自ら、1～5年生を巻き込み、全校児童で寄せ書きを作成し、「感謝の会」を企画



将来にわたり、地域に愛され、支えられていく公共交通となるよう 市民参画，地域協働の取組み（マイルール意識の醸成）

■車両デザインアンケート



■車両愛称アンケート



■停留場名称アンケート

芳賀・宇都宮LRTは2022年開業予定!

今泉地区の皆さん LRT停留場名を選ぼう!

受付期間 2020年12月1日火～12月28日月

応募方法
※右のいずれかの方法で応募ください。
※郵入・一括取り。

- ホームページ内の応募フォームから応募する
宇都宮市ホームページ内の応募フォームより応募してください。
応募フォームはこちら 
- このアンケート用紙で応募する
下記の記入欄にチェックをご記入の上、今泉地域コミュニティセンター内に設置されている専用回収箱に投函または、FAXでこの用紙を送付するかe-mailに選択した候補名を明記のうえ、送付してください。
FAX : 028-639-0614
e-mail: uLRT-PR@city.utsunomiya.tochigi.jp

■停留場壁面デザインワークショップ



大手自動車メーカーでは、宇都宮駅からの通勤用企業バス（約50人乗り計29便）を廃止し、ライトラインの利用を促進

▼ 鬼怒川を渡る橋梁上の渋滞(手前が清原方面)



1日約1,000人を超える従業員にLRTでの通勤を呼びかけ。



工業団地周辺の渋滞解消だけでなく、沿線地域の二酸化炭素の排出量削減にも寄与

③ 「ゼロカーボントランスポート」の実現

ライトラインは、家庭ごみの焼却や家庭用太陽光等により発電された
地域由来の再生可能エネルギー100%で走行する
「ゼロカーボントランスポート」を実現

世界に類を見ない取組！

地域由来の再エネで

LRTが走る！



ごみ処理施設
「クリーンパーク茂原」
※バイオマス発電



家庭用太陽光発電等

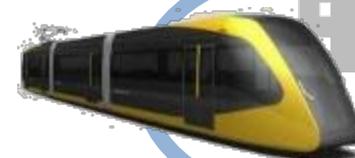
調達



宇都宮ライトパワー株式会社

再エネ100%
供給

車両基地



停留場

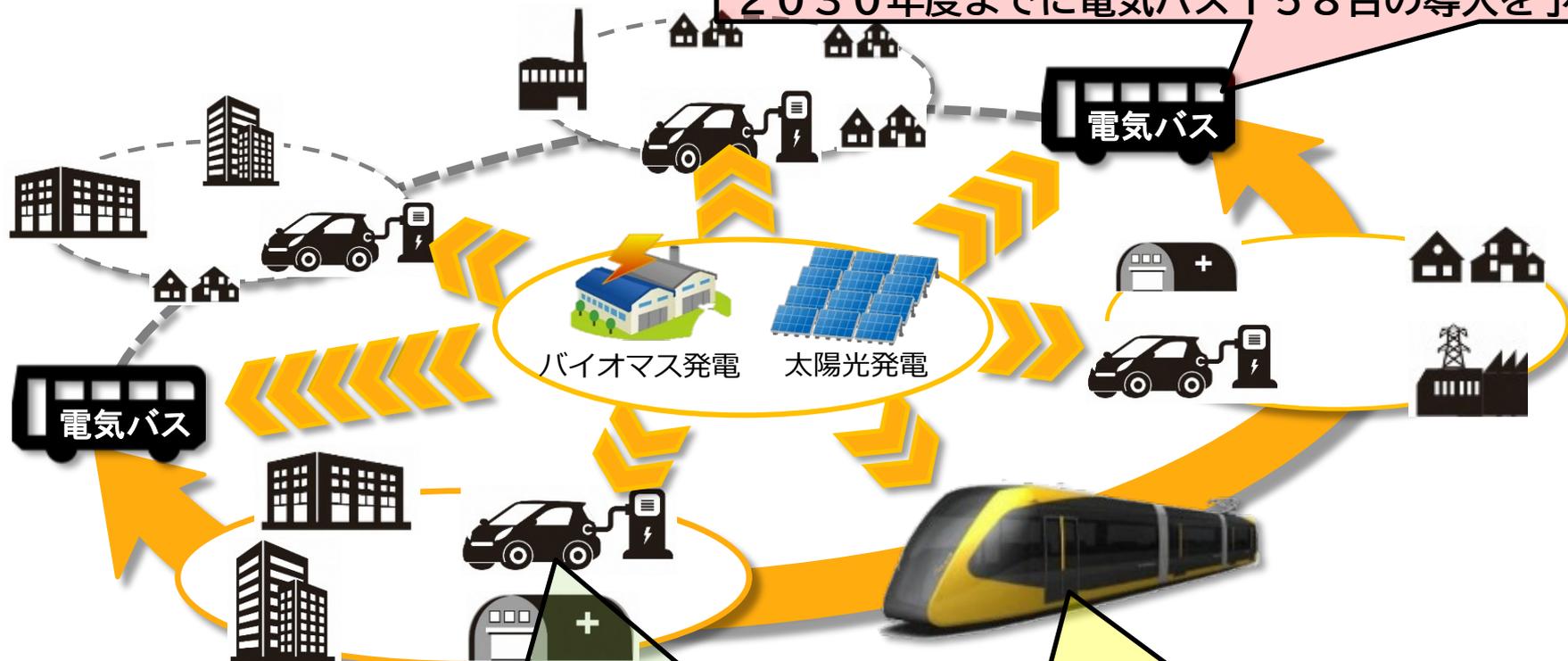
供給される電力が
再エネ100%である証！



LRTの運行に伴う再生可能エネルギーの活用と、自動車からの乗り換えで…
一般家庭で約1,600世帯分、
年間で最大約9,000トンのCO2を削減！！

ゼロカーボンムーブの実現

路線バス（幹線交通）
関東自動車（株）が国のグリーンイノベーション基金事業の採択を受けて、
2030年度までに電気バス158台の導入を予定



地域内交通（端末交通）
拠点内の移動を担う地域内交通の脱炭素化に向けて、
新規補助制度で交通事業者が取り組む
電気自動車等の導入を支援

LRT（基幹交通）
ゴミ処理発電等による再エネを活用し、
令和5年8月から運行開始

1 沿線人口の増加

- ・沿線（ゆいの杜地区）人口が5年で1.5倍に
- ・人口減少・少子化の時代に市内で30年ぶりに小学校が開校
- ・新築賃貸物件への問い合わせは前年同月比587.5%

2 高層建築物の増加

- ・LRT沿線（駅東側）の高層マンション等が増加

3 路線価の上昇

- ・2020年に駅東口前が初めて県内首位に。4年連続首位キープ！
- ・2020年当時の上昇率13.7%は北関東最大

今回の受賞を励みに、
宇都宮市，芳賀町，宇都宮ライトレール(株)では、
ライトラインを最大限に活用し、
全国の地方都市のモデルとなるよう、
50年先，100年先も持続的に発展する
まちづくりに全力で取り組んでまいります。

